

読売新聞 きょう（11月16日）のイチ押し

社会面 高知の官製談合事件 同じ容疑で「異例」の2度逮捕

高知県香南市発注工事を巡る官製談合事件で、高知地検が起訴後に勾留を取り消した同市の男性課長について、県警と地検が同じ容疑で2度も逮捕していました。

- ★ 課長は逮捕後の勾留に対する異議が認められ、いったん釈放されましたが、7日後、地検に同じ容疑で再び逮捕され、起訴されました。その後、同様に逮捕されていた市議員が「課長に入札情報を教えてもらった」していた供述を翻し、地検が起訴後の勾留を取り消しました。
- ★ 法令上、同じ容疑で再び逮捕することは可能ですが、通常そうした例はありません。また、検察側が起訴後の勾留を取り消すのは異例で、過去に起きたケースは、手続きのミスや捜査の誤りが理由で、最終的には、起訴が取り消されたり、無罪論告が行われたりしています。

2社面 神戸5人殺傷無罪判決控訴へ（本紙の独材です）

神戸市北区で2017年7月、親族ら5人を殺傷したとして、殺人罪などに問われ、1審・神戸地裁で無罪判決を受けた無職の男性被告について、神戸地検が判決を不服として控訴する方針を固めました。公判では、被告の刑事責任能力の有無が争点となりました。1審判決は、公判前に行われた計3回の精神鑑定結果に基づき、「事件当時、被告は心神喪失常態だった疑いが残る」として無罪を言い渡しました。検察側は刑事責任能力を認めた鑑定結果の評価が不十分として、控訴審の判断を仰ぐと結論付けたようです。

他紙と比べて

将棋界の最高棋戦を制し、19歳の藤井聡太竜王が誕生しました。昨年、初タイトル・棋聖を獲得してからわずか1年4か月で史上最年少四冠を達成した若き天才は、他の棋士と何が違うのか。文化面（26面）で、永世名人の資格を持つ谷川浩二9段の解説を紹介しています。令和の絶対王者・藤井竜王のすごさの一端がよくわかります。